

水産政策審議会第23回総会開催

水産政策審議会の第23 回総会が 8 月20日、農林水産省で開かれた。任期満了に伴う委員改選では、会長に山川 卓東京大学大学院農学生命科学研究科准教授、会長代理に田中 栄次東京海洋大学海洋生物資源学部門教授がそれぞれ再任された。水政審の委員は21人、特別委員は25 人。ＪＦグループからは、委員として大森敏弘ＪＦ全漁連専務、坂本雅信ＪＦ千葉漁連会長、國分豊子ＪＦ全国女性連会長、特別委員として久保田 正ＪＦ長崎信漁連会長、三國 優全国いか釣漁業協議会副会長、平山孝文ＪＦ全国漁青連会長らが参加している。



挨拶する吉川大臣

冒頭、吉川貴盛農林水産大臣は「水産業は今、大きな転換期にある。水産業を魅力ある産業にしていくために、委員の皆さんの豊富な知識と忌憚のない意見をいただきたい」と挨拶

拶。山川会長は「昨年12月に漁業法が改正され、今後の方向性について検討していく本会の重要性が増してくる。活発な議論をしていただき、有意義な審議・議論を行っていきたい」と語った。

資源管理分科会と企画部会を開催

総会後には、第81回企画部会と第96回資源管理分科会が開かれた。企画部会では、部会長に山下東子大東文化大学経済学部教授、部会長代理に佐々木貴文委員（北海道大学大学院水産科学研究員准教授）を選任し、2019年度水産白書の作成方針等について審議が行われた。水産庁が水産白書の作成方針、スケジュールを説明したほか、特集のテーマについて「変動する我が国の水産業～平成期を振り返って～」とする案を示した。

この説明を受け、大森敏弘委員は「この30年間は、生産額や漁獲量の減少などデータだけを分析すると厳しい結果になりかねない。ポジティブなものもしっかり振り返って、新しい時代に繋がるものにしてほしい」、平山孝文特別委員は「漁業者による環境変動への取り組みなども取り上げてほしい」と発言。他の委員からも「資源管理の取り組みや新規就業者の受け入れなど、現場が努力したことも取り上げてほしい」などの意見が挙が、事務局が「委員からの意見を踏まえて特集をつくっていきたい」と答えた。

今後のスケジュールは、例年同様、翌年5月今後のスケジュールは、例年同様、翌年5月中下旬の閣議決定を目指して作業を進めることとしている。